

在宅医療における医療材料の無駄をなくす検討について

1 現況

- (1) 医療依存度の高い利用者の増加に伴い、必要な医療材料及び衛生材料が増加する。
- (2) 事業所及び患者ごとに購入しているが、ロット単位が大きいため、使用期限切れ等の無駄が生じる。
- (3) 多種多様な材料を在庫するには負担がある。
- (4) 衛生材料等の管理を看護師が行っている。（訪問看護ステーション）
- (5) 薬局が在宅療養者の状態や家族介護の現状を十分に知らない。

2 集中管理をした場合のメリット及びデメリット

区分	メリット	デメリット
医師	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理の減少 ・安価かつ個単位で発注できる。 ・多様な医療処置に対応できる。 ・事務的な作業の軽減 	特殊な材料の場合、在庫があるか。
訪問看護ステーション	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理の減少 ・安価かつ個単位で発注できる。 ・衛生材料等の管理をしなくてよい。 	緊急時対応の在庫が必要
薬局	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤及び衛生材料の宅配業務を利用者へ啓発 ・相談及び指導ができる。 ・住民との繋がりが強くなり、地域の薬局として定着できる。 ・かかりつけ薬局として、患者の病態、経過等の把握ができる。 	在庫のロス 特殊な材料の調達
利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・配達してもらえる。 ・安価かつ個単位で発注できる。 ・薬や物品の管理をしてもらえる。 ・相談や見守りを受けられる。 ・オムツなどの大きな物も配達してもらえる。 	物品によっては単価が高くなる。 滅菌物の取扱い及び保管の問題

3 イメージ図 (案)

